**千葉市長杯争奪学童野球選手権大会 運営規定**

　本大会の運営は、公認野球規則（2018年度日本野球規則委員会）、競技者必携〔2018年度 (財)全日本軟式野球連盟〕に従う他、以下の運営規定に従う。

１.　本大会に出場できるチームは、「千葉市長杯争奪学童野球選手権　実行委員会」（以下、実行委員会）に登録されたチー

ムであること。

２.　出場チームは、試合開始予定時刻1時間前迄に試合場に到着し、大会役員に届け出ること。

３.　出場チームが、試合開始予定時刻迄に到着しない時は、原則として棄権とみなす（球場担当役員と審判員で決定する）。

４.　出場チームは、支給される千葉市少年軟式野球協会の様式メンバー表に、氏名をフルネームで、かつ、振り仮名を附して記入し、４部を大会本部へ提出する。

５.　試合中ベンチに入れる人数は、チーム選手20名、指導者として代表者、監督、コーチ２名、マネージャー１名、介護員２名の７名以内とする。

６.　試合の時間は、１時間30分とする（シートノックは含まない）。

７.　試合は、時間内７回戦とする。終了時同点の場合特別延長戦を行う。

８.　特別延長戦は、１死満塁からのサドンデス方式による。前項７でも勝敗の決まらない時は、最終回時のメンバー各９名の選手により○×抽選により勝敗を決す。

９.　点差によるコールドゲームは、３回以降10点差、5回以降７点差とする。天候（降雨、日没等の場合）による場合は、４回終了をもって試合成立とする。 決勝戦は、点差によるコールドゲームは適用しない。

10. 塁間は、23メートル、本塁から投手板迄の距離は16メートル（公認野球規則）とする。ベースは、移動ベースを使用する。

11. シートノックは、１チーム５分以内とし、捕手はマスク（スロートガード付）、レガース、プロテクター、ファールカップ、ヘルメットを着用する（控え捕手も着用する）。　ノッカーに対する背後からのボールの手渡しは、危険防止の為、禁止する。

12. ベンチは、抽選番号の若い方を１塁側とする。　攻撃順は、メンバー表提出時に決める。

13.　背番号については、監督30番、コーチは29番、28番，主将は10番とする。但し、代表者、マネージャー、介護員はユニホームを着用しなくても良いが、チームと同一の帽子を着用する。

14.　試合中抗議のできる者は、監督と当該選手とする。

15.　準備投球は、１回目と交代時は７球以内、２回目以降は４球以内とする。但し、諸事情によっては、実行委員会の判断により変更

できるものとする。

16.　ファールボールは、１塁方向は１塁側ベンチ、３塁方向は３塁側ベンチが処理する。

ボールボーイは、ヘルメットを着用すること。

17.　試合場の広さ、障害物その他の状況を考慮し、その試合の特別ルールを作ることができる。

18.　各チームの応援団、ベンチは、相手チームの気分を害さないよう、少年野球に相応しい応援で臨むこと。

19.　応援については、チーム監督が責任を持つ。特に、選手、審判等に対する野次、その他品位を欠く言動は厳に慎むこと。

20.　大会において、不正を行ったチームへの処置。

　　①　不正を行ったチームは、失格とする。

　　②　試合中及び試合終了後に発見された場合は、相手方に勝利を与える。

　　③　決勝戦の場合、準優勝チームを優勝とし、準優勝は実行委員会預かりとする。

21.　使用球は、全日本軟式野球連盟公認球「Ｃ号球」とし、金属バットは「ＪＳＢＢ」マーク入りの公認のものを使用すること。

22.　ヘルメットは「ＪＳＢＢ」マーク入りで、両側にイヤーラップの付いたものを最低８個用意し、打者、次打者、走者、ランナーズコーチャー及びボールボーイが着用すること。

23.　捕手（控え捕手も含む）は、マスク（スロートガード付）、レガース、プロテクター、ファールカップ、ヘルメットを使用すること。

　　　投球練習時も同様とする。

24.　選手の手袋使用は守備、打撃、走塁共に認める。但し、投手守備時の手袋使用は不可とする。

25.　選手、指導者のリストバンド等の使用は認めない。

26.　審判は、千葉市少年軟式野球協会所属他の審判員が行う。

27.　試合を行うチームは、救急箱を必携すること。また、ゴミ袋等を用意し、使用球場の美化に努め、グランドの整備も行う。

28.　作戦タイムは、攻撃時３回、守備時３回とする。なお、守備時に３人以上集まれば１回とみなす。

　　　特別延長戦は、攻撃、守備時にそれぞれ１回ずつとする。

29.　第２試合以降のチームは、前の試合４回終了後に、先発投手のグランド内での投球練習ができるものとする。